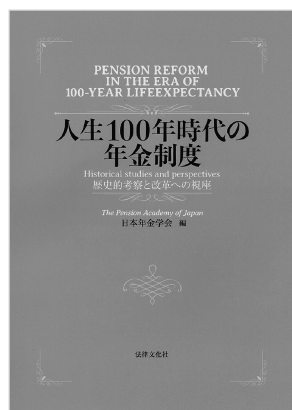


年金・退職金関連書籍のご紹介

『人生100年時代の年金制度 歴史的考察と改革への視座』



日本年金学会 編

[発行] 法律文化社 [発行年月] 2021年1月
[ページ数] 247ページ [価格] 4,290円(税込み)
[ISBN] 978-4-589-04120-3

日本年金学会・創立40周年にあたり出版された。年金学会所属の研究者・実務家13人が各1章を担当。年金の過去・現在・未来をそれぞれの筆者の切り口で論じている。一口で年金というが、実に多くの論点があり、年金の奥深さに改めて気づかされる。各1章だけでも、十分に読み応えがある。

『投資信託の法務と実務 [第5版]』



野村アセットマネジメント株式会社 編著

[発行] 株式会社きんざい [発行年月] 2019年10月
[ページ数] 716ページ [価格] 7,700円(税込み)
[ISBN] 978-4-322-13453-7

確定拠出年金制度における運用商品といえば投資信託だが、投資信託について本腰を入れて学ぼうとしてもなかなか適当な書籍は見当たらない。そんな中で本書は、実務に携わる執筆陣が、法律を根拠に投資信託の実務を解説している。DCプランナーにとっては、辞書代わりに手元へ置いておきたい1冊である。

『〈EXCELで学ぶファイナンス②〉証券投資分析〈第3版〉』



藤林 宏・袖山則宏・矢野 学・角谷大輔 著

[発行] 株式会社きんざい [発行年月] 2009年04月 [サイズ] A5判
[ページ数] 279ページ [価格] 3,080円(税込み)
[ISBN] 978-4-322-11394-5

確定拠出年金制度において投資教育をどのように行っていくかはDCプランナーにとっても重要な課題である。できれば避けたいのが本音かもしれないが、投資を考えるのに数式を避けることはできない。その手助けになるのが本書である。機関投資家のポートフォリオ策定プロセスについても、丁寧かつ正確に解説してある。EXCELを使った具体的な計算例も記載されており、途中の計算を飛ばしたい向きにも、非常に参考になる。意欲・興味のある方には是非一度お勧めしたい。